

県立安芸津病院耐震化の基本計画について

1 趣 旨

県立安芸津病院の耐震化について、令和7年2月に公表した基本構想を踏まえ、建築費高騰等の状況変化を踏まえた整備手法の見直しを行い、基本計画を整理した。

2 現状・背景

- (1) 県立安芸津病院は、県内でも特に高齢化・人口減少の進む地域に位置しており、二次救急輪番制病院の一つとして救急医療体制を維持するとともに、小児科、婦人科など地域に不足する診療科を幅広く備えるなど、地域住民の健康と暮らしを支える地域に欠かせない中核病院としての役割を果たしている。
- (2) 将来の医療需要を見据えつつ、効率的で持続可能な医療提供体制を確保し、安定した経営の下で、地域の医療機関や介護サービス事業者等と連携した在宅療養支援の充実や、予防医療を推進するための健（検）診を行うなど、地域包括ケアシステムにおける役割を継続的に担うこととしている。
- (3) 一方で、既存棟（旧棟）は建築から50年以上経過しており、現行の耐震基準を満たしていないだけでなく、施設及び設備の老朽化が著しいため、耐震化対応の基本的な指針（県立安芸津病院耐震化対応基本構想）を令和7年2月に策定したところである。

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 整備手法の見直し

- ・ 基本構想策定時は、病床規模が同程度の病院の面積及び建築費を参考に想定した。基本計画の策定にあたり、関係者との調整による必要な諸室面積の精査、及び建築費等の状況変化を踏まえた概算事業費の精緻化を行った。
- ・ さらには、建築費の高騰等を踏まえ、既存棟のうち新棟を活用する案について検討したところ、概算事業費が抑制できること、かつ将来の医療需要の変化に応じた対応（例：新築棟への機能集約等）が行いやすいことから、次の見直し案で対応する。

【概算事業費比較】

| 区分 | 基本構想案 | | 見直し案 |
|-------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 策定時(参考) | 精緻化後 | |
| 建築単価 | 493 千円 | 750 千円 | 750 千円 |
| 新築面積 | 約 4,600 m ² | 約 6,000 m ² | 約 5,000 m ² |
| 改修面積 | — | — | 約 700 m ² |
| 概算事業費 | 約 38 億円 | 約 65 億円 | 約 56 億円* |

※既存棟改修費を含む。着工時の建築費高騰リスクとして最大約 65 億円を見込む。

【整備手法の内容】

| | 基本構想案 | 見直し案 |
|------|---|--|
| イメージ | <p>駐車場</p> <p>新築棟</p> | <p>新棟 (一部改修)</p> <p>駐車場</p> <p>新築棟 (面積抑制)</p> |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> 既存棟（旧棟・新棟）を解体し、隣地に新築棟を建築 既存棟の敷地を駐車場として整備 | <ul style="list-style-type: none"> 隣地に新築棟を整備 既存棟（新棟）を一部改修し、事務室等の診療機能と関連性の低い部門で活用 既存棟（旧棟）を解体し、駐車場に整備 |
| 評価 | <p>新築面積が大きいため、建築単価の上昇により概算事業費が高い</p> | <ul style="list-style-type: none"> 新築面積を削減することで概算事業費を抑制できる 将来の医療需要の変化に応じた対応（例：新築棟への機能集約等）が行いやすい |

(3) 整備スケジュール

| 2024 年度 令和 6 年度 | 2025 年度 令和 7 年度 | 2026 年度 令和 8 年度 | 2027 年度 令和 9 年度 | 2028 年度 令和 10 年度 | 2029 年度 令和 11 年度 |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------------|
| ●基本構想 | ●基本計画 | 基本設計・実施設計 | 着工準備・契約手続 | 建築工事 | ●開院 既存棟（旧棟）解体等 |